

「Z世代によるタイパ重視Z世代に向けた旅のすすめ ～短期間旅の学びと意識変化の検証～」



<メンバー>

大学院生：小田島真徒

学部生：井上慶太郎、新村一翔、喜屋武龍太、堂下晃大、白水顕、大井康平、ベン・リチャ

教員：巴特尔、大竹英理子、今村康子

1. 研究背景・問題意識

研究背景

20世紀システムから21世紀の未来圏を構想する時代に入り、アジアダイナミクスをはじめ

世界への全体知や対人における身体知の重要性が高まっている。

現代の情報化社会では、問題を特定し解決する力、自ら考え行動する力、様々な人とコミュニケーションをとる力等のジェネリックスキルが必要であり、旅に出ることでジェネリックスキルが向上することをいくつもの研究が示している。

問題意識

日本のZ世代は、旅の優先順位が低い。推し活など、自分の価値観に合ったものには時間やお金を厭わず費やし追求する特徴がある。一方、情報収集・コミュニケーションツールはSNS、意思決定はスマホに委ねる（思考の外部化する）、同じ属性の人同士の交流を好む。タイパ重視との理由で、時間がかかること、結果が予見できないこと、予定通りに進まないことは好まない傾向がある。

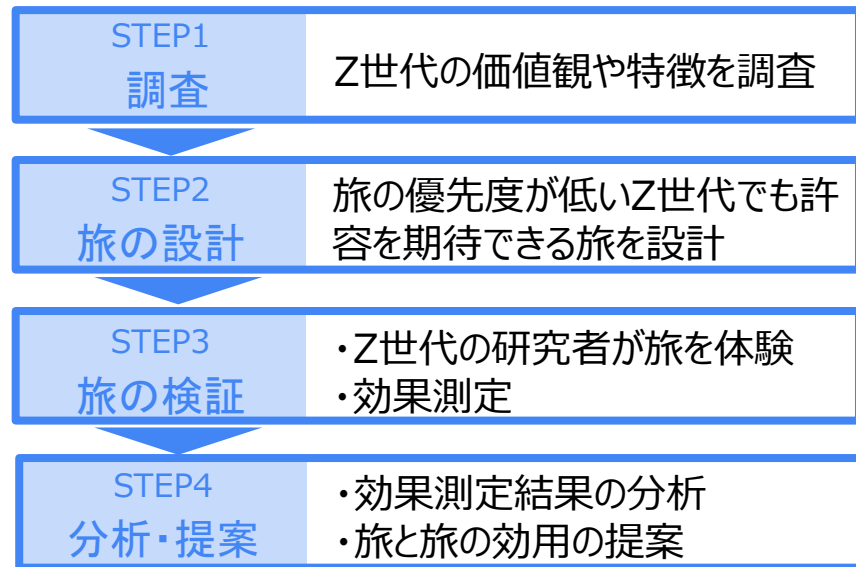
この状況にZ世代の当事者として危機感を覚え、Z世代の大学生自らが、タイパ重視のZ世代を旅に誘引し、ジェネリックスキルを高める機会の創出に寄与したい。

2. 研究目的・研究のアプローチ

研究目的

本研究の目的は、Z世代を対象とした「自己の成長につながる旅」をZ世代の大学生自らが設計、実施、検証、分析することで、Z世代の目線から「Z世代を旅に誘引する旅の一例とその効用」を示すことである。

研究のアプローチ



Z世代の価値観・特徴調査から、
Z世代でも許容する旅（タイパ旅）として、

2泊3日の短期間で様々な体験ができる旅を設計

以下の仮説を検証

仮説a：

Z世代の大学生がタイパ旅を体験することで、
「ジェネリックスキル」や「将来に向けた意識」に
変容がある

仮説b：

設計したタイパ旅と仮説aを可視化し、旅と旅の
効用を示すことで、Z世代が旅に出たいと思うように
なる

3. 研究方法

(1) 文献調査 (STEP 1)

- ① Z世代の価値観、行動の特徴と旅に対する意識・実態調査
- ② 旅と学びに関する文献調査

(2) 旅の設計 (STEP 2)

- ① 旅の設計 (旅先に関する事前調査、旅先の選定、旅程の作成)
- ② 効果測定ツール準備 (汎用検証ツール、IDGs指標アンケート作成)

(3) 旅の検証 (STEP 3)

- ① Z世代の研究者らが旅をする
- ② 旅前・旅後のアンケート調査
- ③ 旅を振り返るワークショップ

(4) 分析・提案 (STEP 4)

- ① 結果まとめ、分析
- ② Z世代から旅の推奨とし、Z世代に対する「旅の一例とその効用」を提案する

(5) 検証：(4) -②がZ世代の旅を誘引するかを検証

4. 旅の設計 旅程 @千歳市

月日	時間	内容
9月24日 (火)	9:30	新千歳空港着
		キャンプBBQ食材買い出し
	13:00	支笏湖 カヌー体験
	16:00	美笛キャンプ場でキャンプ体験 (テント組み立て)
	適時	BBQ準備 (テーブル設置、火起こし)
		メンバーでキャンプ飯を料理 (BBQ)
		キャンプ場 テント泊
9月25日 (水)	適宜	撤収
	9:45	美笛キャンプ場出発
	11:00	ラピダス関連 (千歳市次世代半導体拠点推進室)
	午後	農業体験
		宿泊施設チェックイン
	適時	夕食
9月26日 (木)	適宜	チェックアウト
	9:00	北海道キッコーマン工場見学
	午後	終日フリー (単独行動)
	19:30	新千歳空港発(ANA78便)

【タイパ旅】

2泊3日の短期間で、様々な
非日常体験をする旅を計画

期間：9月24日～9月26日

参加人数：大学生5人

(3年生3人、2年生2名)

5. 旅の学び（ジェネリックスキル）効果測定



①旅と学びの汎用検証ツール

- 産官学連携コンソーシアム「旅と学びの協議会」が提示している旅の効果の検証ツール
- 旅前、旅直後、旅しばらく後で自己評価を実施し、以下20項目に関して結果を分析する
共感、コミュニケーション、チームワーク、エンパワメント、問題発見、変革力、挑戦意欲、
独創性、熱意、博愛、感謝心、謙虚さ、多様性理解、柔軟性、グローバルな人間関係、
積極的な多言語活用、自分らしさの発揮、自己管理、何事も学ぼうとする姿勢、主体性

②Inner Development Goals (IDGs)指標

- IDGsとは、SDGsを実現するために必要な人々の内面的能力や価値観に焦点をあてた開発目標、以下に述べる5つのカテゴリーに分類された23のスキルを特定 (Rodriguez, 2023)
- 旅前、旅後に自己評価を実施し、その結果を分析する
自分のあり方—自己との関係性、考える—認知スキル、つながりを意識する—他者や世界を思いやる、協働スキル—社会的スキル、行動する—変化を推進する

5. 旅の学び（ジェネリックスキル） 効果測定



③旅を振り返るワークショップ（駒沢女子大学 鮫島教授を迎えて）

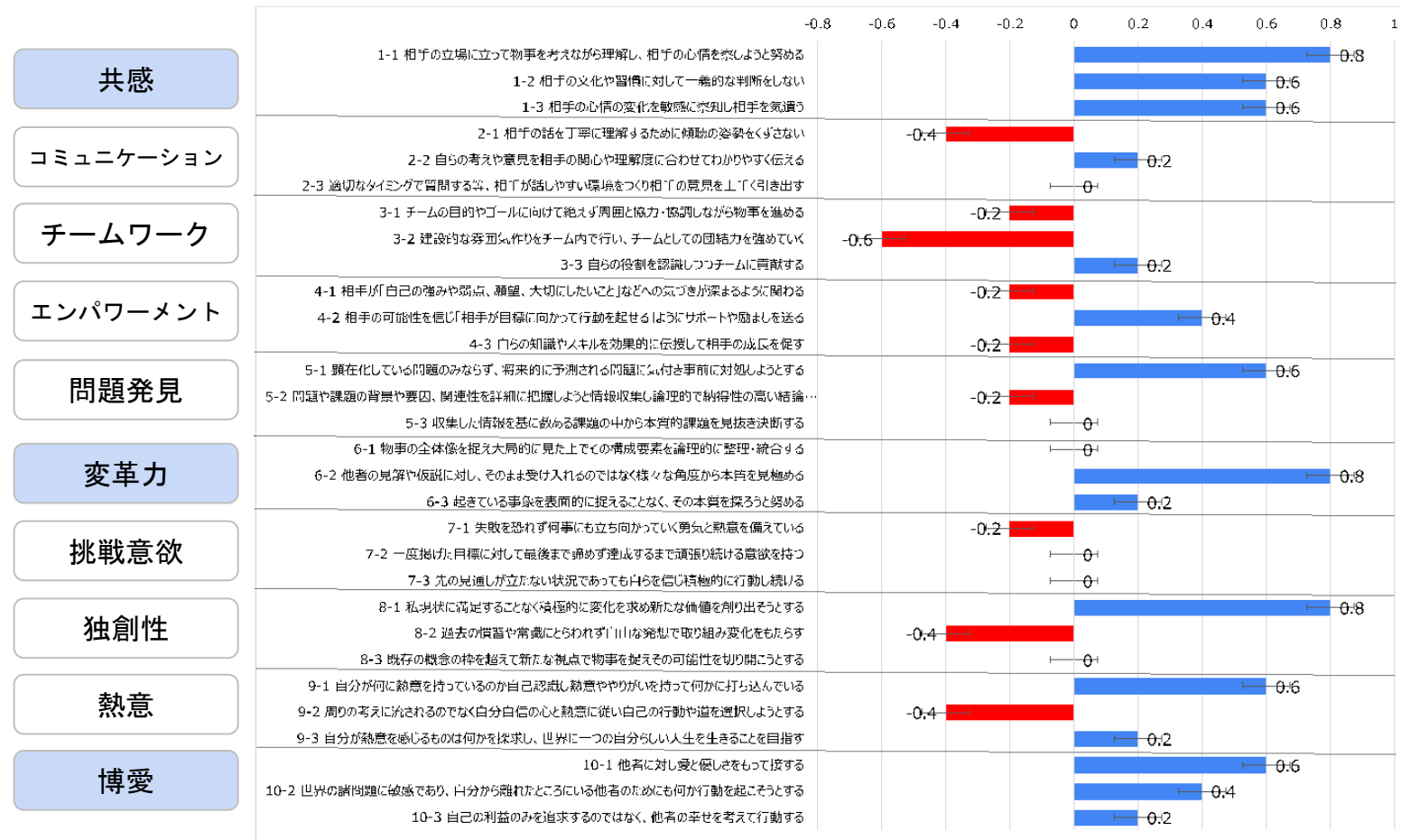
変革的旅行経験（Transformative Travel Experience）：旅行をきっかけに既存の価値観や世界観に変化が起こる経験（中島&小口,2023）を語る



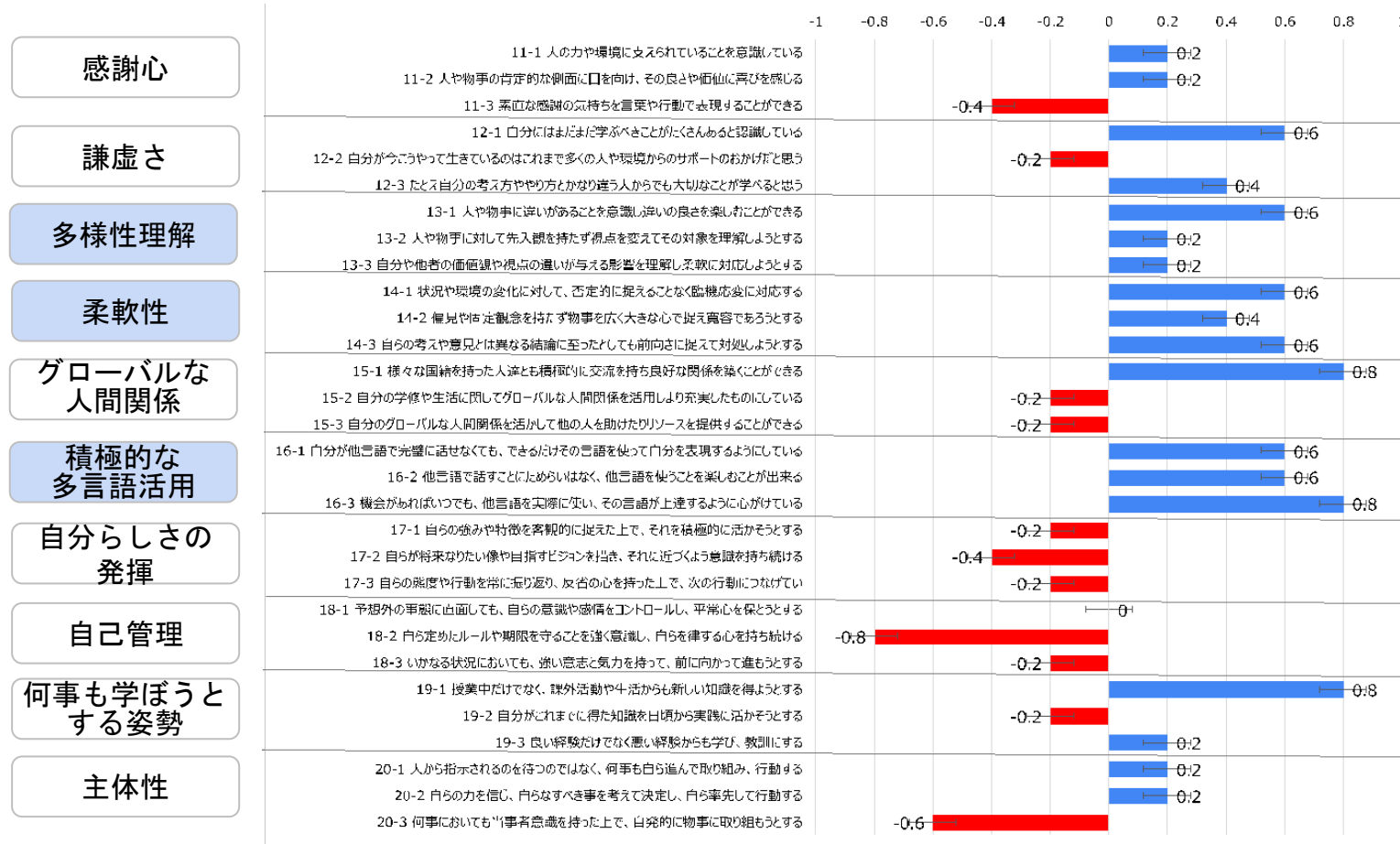
- 写真を1枚を示す
- 今回の旅を通じて自分が変わったと思うことは？
- それはどのような経験がきっかけだったか？

6.効果測定結果 ①旅と学びの汎用検証ツール 旅前・旅後差異平均

n=5



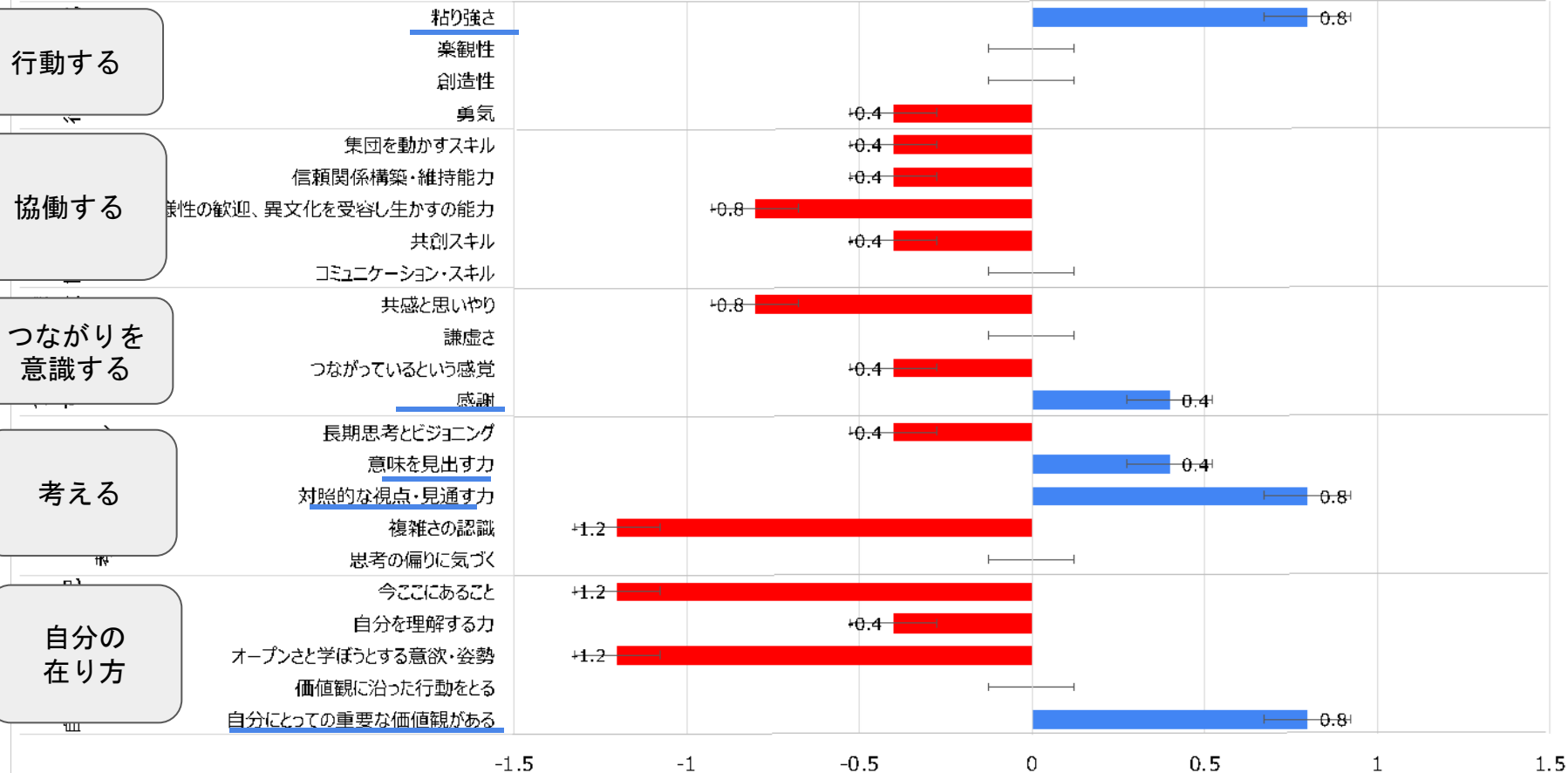
6.効果測定結果 ①旅と学びの汎用検証ツール 旅前・旅後差異平均 n=5



6. 効果測定結果

②IDGs指標 旅前・旅後差異平均

n=5



6. 効果測定結果 ③旅を振り返るワークショップ【旅の体験と感想】

名前：
学生同士の価値観
が違って共同作業が
難しかった。

先生の対応力には
びっくりした！



名前：
夜が真っ暗だった！
黒にもいろんな色
が見えた。
自分の苦手を伝えて、
協力するのが大変だ
った！



名前：
自然の美しさ、農地の
広大さに感激！
人との会話を避けがちだ
った自分が、帰りの飛行
機は2時間会話した。



名前：
キャンプは普段話さない人同士
のやり取りが必要だった。自分は、
これまで知らない人との関係構
築を避けがちだったことに気づいた。
それからは、旅先で出会う人との
会話が億劫ではなくなった。



名前：
到着早々、BBQの買い物で
プチ喧嘩が勃発！
価値観やコミュニケーションス
タイルの違いを理解するなど
対話の重要性を再認識した。



6. 効果測定結果 ③旅を振り返るワークショップ【旅後の意識と行動の変化】

感性

モノの見方、感じ方を意識的に深められるようになった。

人との協調性

人とのコミュニケーションに関心が芽生えた。
人との協調性を意識するようになった。

積極的な コミュニケーション

人との関わりは、受け身が多く必要最低限にする傾向だったが、積極的にコミュニケーションをとり、対話からの協調性を大切にしたい。

対人関係

相手の理解に努めながら関わることで、衝突を起こさずにチームとして取り組めるようになった。
中でも、協調性と対応の仕方に変化が生まれた。

未知との つながり

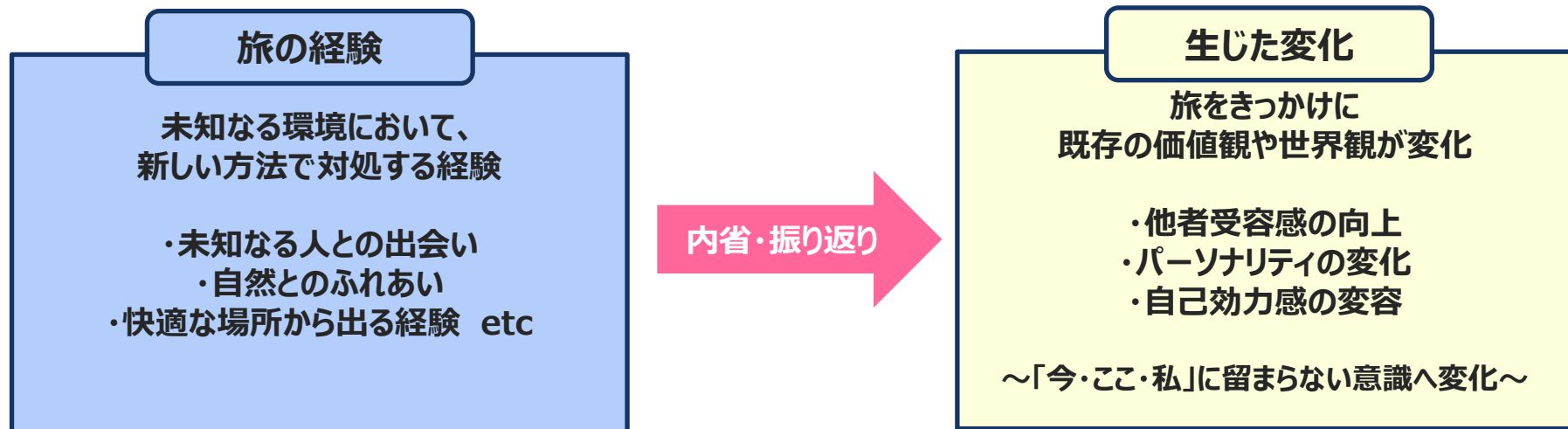
知らない人との関係作りや関わりを、自分から避けないようになった。

7. まとめ

仮説a: Z世代の大学生がタイパ旅を体験することで、
「ジェネリックスキル」や「将来に向けた意識」に変容がある

検証後: タイパ旅での経験をきっかけに、ワークショップでの内省を通して、
Z世代大学生の「価値観・世界観」に変化が起きた可能性がある

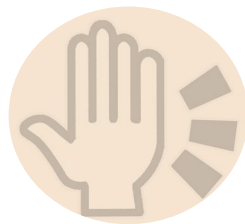
* N数の限界からジェネリックスキルが高まったとまでは言えない



私たちは、
2泊3日で様々な体験をする千歳の旅を紹介しました。
そして、その旅が自分たちのジェネリックスキルや意識にどのような変化があったのか自ら体験し、分析し、発表しました。



8. 検証にご協力ください



3つの回答から選んで手をあげてください

**「この発表を聞いて、旅に行きたくなりましたか？」
アンケートにご協力ください。**

☐ 発表を聞く前より、旅に行きたくなった

☐ 発表を聞く前と後で、旅に対する気持ちは変わらない

☐ 発表を聞いても旅に行きたいと思わない



参考文献

1. 寺島実郎「『移動と交流』が開く新時代」、『構想の庭』第2号、2016年4月1日
2. 津田佳明「旅と学びを検証する」、Career Guidance Vol.450 2024 APR P19-23
<https://shingakunet.com/ebook/cg/450/#page=21>
3. ペール・アンデション著 畔上司訳『旅の効用：人はなぜ移動するのか』、草思社、2020年
4. 長倉顕太『移動力』、すばる舎、2019年
5. 金 春姫・鎌田裕美「若者の旅行に対する意識」、成城・経済研究 第188号（2010年3月）
<https://www.seijo.ac.jp/pdf/faeco/kenkyu/188/188-kin-kamata.pdf> 閲覧日：2024/06/01
6. 日比野直彦・佐藤真理子「若者と旅 - 若年層の国内観光行動の時系列分析 -」、国際交通安全学会誌 VOL.37、No. 2、2012年9月、
<https://www.iatss.or.jp/common/pdf/publication/iatss-review/37-2-07.pdf>
閲覧日：2024/05/10
7. 「若者が旅行しないのはなぜ？ 旅行離れにつながる若者の意識や志向をまとめてご紹介」、ホテル宿泊業界情報コラム おもてなしHR、2021年7月7日
https://column.omotenashi.work/column/bits_of_knowledge/24393 閲覧日：2024/5/20
8. 消費者庁「【特集】変わる若者のyそうひと持続可能な社会に向けた取組～18歳から大人の新しい時代へ～」『令和4年消費者白書』（第1部第2章）、2022年
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/assets/2022_whitepaper_0003.pdf
閲覧日：2024/6/1
9. 北海道千歳市公式ホームページ-City of Chitose『第2章 農業を取り巻く環境変化・動きと千歳市農業の特徴と課題』
<https://www.city.chitose.lg.jp/fs/2/4/0/6/2/9/2.pdf>
10. 鮫島卓「グループ旅行における人的交流がジェネリックスキルに与える影響」2022年
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitrproceedings/37/0/37_181/article/-char/ja/
11. 和田朋子「大学教育に求められる「ジェネリックスキル」の教育」（2023年4月14日）
<https://library-kogakuin.repo.nii.ac.jp/records/374>

ご清聴ありがとうございます。